

環境教育の開発プログラム

No. 68 研究幹事 谷口文章（文学部）

本チームでは、初年度に、研究会を基礎にして各分野から発表会を行ない、それに合うような実践研究を行った。たとえば、ISO14000シリーズがどのように教材に組み入れられ甲南学園全体に試行できるか。甲南大学広野野外施設におけるビオトープ製作の実体験およびその観察、甲南中学校・高等学校の「総合的学習の時間」のカリキュラム、広域副専攻の環境学コースの教員との協力の下で、イントラネットを使用した教材開発の充実、甲南大学生だけでなく甲南中学・高校の生徒もまじえた広野野外施設における田植え、山林の開墾の実習、国際会議（「日中環境教育情報交流シンポジウムおよび内モンゴル環境調査」1998年8月、於：中国・北京大学、内モンゴル・包頭市、「日本・タイ国際会議 環境倫理と環境教育」2000年8月、於：タイ・プラナコーン＝ラジャバト王立大学）において国際的なインターネット教材の開発を行なった。

本研究会の成果として、一方で、従来の環境教育が十分に取り扱わなかったテーマ、とくに社会環境の規制を取り上げたことは意義があったと思われる。他方で、現場重視の環境教育の実践は、広域副専攻の新設科目である「環境教育の実践」とも合流して、新たな体験学習とその可能性を実感した。さらに甲南中学・高校との「総合的学習」の研究は、環境教育を軸とした平生精神（知育・体育・徳育）の展開となることがわかった。

とくに、本年8月に行なわれたタイ・プラナコーン＝ラジャバト王立大学における国際会議では、甲南大学のインターネットを使用して、タイの大学から甲南大学にアクセスすることで、リアルタイムの教材開発の実験を試みた。それはIT革命の先端を行くグローバルな試みであった。そのときのシンポジウム「環境教育の教材開発とネットワークの可能性」で発表されたタイの研究者の内容も、今後、甲南大学のインターネット教材のコンテンツとして取り入れる予定である。

以上のように、本研究会では基礎研究を前提として、ローカルな野外学習のフィールド実習と、その体験を踏まえた上で、グローバルな国際的な活動を行なうことができた。

2000年 甲南大学総合研究所所報 第32号より転載

発行元：甲南大学

[\[RETURN \]](#)